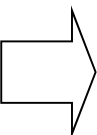
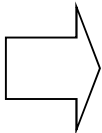
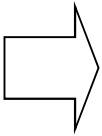


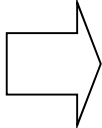
第1回資源化グループ会議における主な意見

区分	視点		課題	主な意見
家庭系	取組の推進	集団資源回収の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収量の減少（23年度をピークに減少） ・未利用者への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば古着のように団体によって、回収しないところがある。どの団体でも出せるようにできないか。 ● 資源回収業者が業者間で回収品目の情報交換を行うことで、自身の収入増となることが分かれば、回収品目を増やすことにつながるのではないか。 ● 集団資源回収量の減少というよりは、新たな民間の拠点回収ルートへ流れている。民間ルートの回収量を把握することが必要である。 ● 市の支出が減ることにつながるので、民間ルートの活性化は良い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; display: inline-block;">  <ul style="list-style-type: none"> ● 民間拠点等による回収量の把握 ● 集団資源回収制度の維持に加え、民間拠点を活用した未利用者の掘り起こし </div>

区分	視点		課題	主な意見
家庭系	取組の推進	分別・排出ルール の周知・徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「リサイクルの見える化」や「リサイクル品の購入」についての啓発が必要 ・燃やせるごみに含まれる「紙類」「容器プラ」はそれぞれ約 17,000 トン ・「容器プラ」と「雑がみ」の分別協力率は 60%前後 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生向けのチラシの新入生への配付方法を考える必要がある。チラシがそのまま資源回収業者へ引き渡されることもある。 ● 大学生は住民票を移さないで、区役所よりは不動産屋とタイアップして配布するのが有効でないか。 ● ポスター・チラシの内容は、工夫次第で効果的な啓発やアプリのダウンロードにつながるのではないか。 ● 新入生ガイダンスの際に、札幌での新生活の一部として、ごみの分別に関する説明する機会を設けられないか。 ● 学生からは、紙・プラを燃やせるごみとして出していると聞いている。ごみ袋にお金がかかるということをあまり気にしていない。また、お金を出しているのだから、燃やせるごみに紙・プラを出している、という意見もある。 ● 資源物の分別を徹底し、それを市が収集・処理することは、市の負担増につながる。分別も協力してもらいつつ、市のコスト負担も減らせる仕組みを、考えなければならない時期に来ているのではないか。 <div data-bbox="1178 1054 2007 1241" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <ul style="list-style-type: none"> ● 啓発媒体の内容や周知方法の改善・工夫 ● 行政収集・処理のコスト削減 </div>

区分	視点		課題	主な意見
家庭系	仕組みの整備	資源として活用可能な品目の回収の多様な回収方法の整備	<ul style="list-style-type: none"> 燃やせないごみに含まれる小型家電類は約 3,000 トン 地区リサイクルセンター利用者の向上 利用しやすい回収拠点の整備（高齢者対策） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区リサイクルセンターを除いて、拠点回収毎に回収する品目が異なるので、利用しづらい面がある。 ● 地区リサイクルセンターは、何でも回収でき、便利ではあるが、近くにないと利用は難しい。 ● 高齢者は重いもの、大きなものが運べないので、これらの対応を考える必要がある。 ● 民間の拠点回収ルートが普及すると、地区リサイクルセンターの役割も、例えばそこで働いている方が、高齢者からの連絡を受けて運びだしするなど、少しずつ変わってくるのではないか。 ● 生前整理などに家の中に滞留しているものが多くある。これらを整理するに当たって、リサイクル店や民間のポイント付与型の拠点回収、地区リサイクルセンターなどへ持ち込まれるようになれば良い。 ● すぐには変えられないが、行政の負担が大きい容器包装廃棄物は、小型家電のように民間が主体となるリサイクルシステムへ移行する方向性を検討すべきである。 <div data-bbox="1290 1034 2007 1278" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間ルートを含め回収拠点の充実 ● 高齢者の利用を手助けする仕組み ● 容器包装廃棄物等の民間主体のリサイクルシステムへの移行に向けた働きかけ </div>

区分	視点	課題	主な意見
家庭系	市民が行う生ごみ堆肥化への取組支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で作った堆肥の活用方法が限定的 ・マンション等の集合住宅に住む市民が堆肥化に取り組みづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 堆肥化器材の購入助成は、市民がごみの減量を行うための施策であり、また啓発の意味もあるので、継続する必要がある。 ● 食品ロスの削減という2Rの取組とともに、排出された後も生ごみは資源ということを全面的に押し出すことが大切である。このような面からも生ごみの資源化事業は継続してもらいたい。 ● 市が収集しなくてもよくなる分、ディスポーザーの普及は考えられないか。 <div data-bbox="1189 632 2016 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <ul style="list-style-type: none"> ● 現在の取組や事業の継続 ● 「生ごみは資源」という認識を定着 </div>

区分	視点	課題	主な意見
事業系	事業ごみの分別・資源化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・事業ごみの更なる減量 ・事業ごみは生ごみと紙類がそれぞれ約3割占めている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 薄野で行っている生ごみの資源化事業を他地区でも展開することについては、処理施設の能力や異物の混入防止などの問題があり、市が行うことが難しいのは理解できるが、新たな民間事業者が行う可能性もあるので、市の事業系生ごみの資源化に対する方向性を示すことが重要。 ● 民間処理ルートに回っている資源物回収量を把握することは、困難であるが、推計的なりサイクル率（再生利用率）を出すことはできないか。 ● 民間事業者が独自で回収した資源物の量を市へ報告し、それを市のHPで掲載するような民間事業者との協力関係を構築することによって、回収量を把握する仕組みができるのではないか。 ● ISO14000を取得している事業者が多い。事業者間でごみ減量を競争するような仕組みはできないか。 ● 生ごみの資源化事業において、民間の処理施設の能力が不足していたり、収集面の課題はあるが、良い結果が得られているので、今後新たな事業者が現れたり、既存事業者が規模拡大することも考えられる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content;">  <ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者との連携（回収ルート・回収量の把握） ● 事業者間のごみ減量を競争する仕組み </div>